

歌に詠まれた筑波山——万葉集を例に——

「初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薰す」

平成の次の元号である「令和」の典拠は、『万葉集』巻五「梅花の歌三十二首」。新元号選定にあたり、「初春の」序文から引用されました。

『万葉集』は、奈良時代末期に成立したとされる、現存する日本最古の歌集です。大伴家持が編纂に関わったとされ、天皇、貴族だけでなく下級官人や防人など、さまざまな身分の人が詠んだ歌が四五〇〇首以上収録されています。

全三十巻からなる『万葉集』ですが、このなかには筑波（山）を詠んだ歌が合計二十五首収録されています。「西の富士、東の筑波」という言葉がありますが、富士（山）を詠んだ歌が合計十一首に対し、筑波のそれは倍以上の数が挙げられます。

ここで、筑波山を詠んだ歌のなかから一首ご紹介したいと思います。

鶏が鳴く 東の国に 高山は 多にあれども 朋神の 貴き山
の 並み立ちの 見が欲し山と 神代より 人の言ひつき 国に
見する 筑波の山を 冬ごもり 時じき時と 見ずて行かば
まして恋しみ 雪解する 山道すらを なづみぞわが来し

（巻二 丹比真人国人）

有名な筑波山に登らないで帰ることは出来ないということ
で、今はまだ登る時期ではないが、無理して登つてきいた旨を詠
んだ歌ですが、男体山と女体山の二峰に祀られている二柱の神
(朋神の貴き山)、男体山と女体山が並立するようす(並み立ち
の)など、筑波山をよく表した箇所もみられます。この歌を
詠んだ丹比真人国人は、天平八年(七三六)従五位下に叙任さ
れ、天平宝字元年(七五七)遠江守となりますが、同年七月に
起こった橘奈良麻呂の変に連座したとして、遠江守の官職剥奪
ののち伊豆国へ流刑に処されました。

「紫峰」、「筑波嶺」などと称して親し
まれ、信仰の山としても知られてきた筑
波山は、花の咲く春、木の葉が色づく
秋、男女が手を取り合って筑波の山に登
り、遊び楽しみながら歌をやりとりする
唄歌が行われたと『常陸国風土記』にみ
ることが出来ます。



棚一枚でもお気軽にどうぞ!

株式会社 笹光建設

〒311-3416 茨城県小美玉市与沢253-37
TEL 0299-54-0618 FAX 0299-54-0421

www.sasamitsu.co.jp/

ささみつ

検索

新築/増改築/小さなリフォームなど

外壁・屋根…うちもそろそろかな…?

色々なところから営業が…
どこに頼めばいいの…?

そんなあなたも
お気軽にご相談下さい!
外装点検・お見積り無料

一級塗装技能士による住まいの塗り替え
(有)中嶋塗装工業

茨城県知事許可 第31532号 本社 石岡市半木14159-5

中嶋塗装

TFL0299-57-1641